



(壬生)

6 調査担当者
日下田欣一・柳瀬安栄・小森哲也・田代 隆・
鈴木泰浩・山口耕一

- | | |
|-----------------|---|
| 1 在地 | 栃木県下野市（旧下都賀郡国分寺町）下古館 |
| 2 調査期間 | 一九八八年（昭63）四月～一九八九年（平1）三月 |
| 3 発掘機関 | 財栃木県文化振興事業団 |
| 4 調査担当者 | 日下田欣一・柳瀬安栄・小森哲也・田代 隆・
鈴木泰浩・山口耕一 |
| 5 遺跡の種類 | 集落跡（市を含む中世宿か） |
| 6 遺跡の年代 | 一三世紀初頭～一五世紀前半 |
| 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 下古館遺跡は、旧下都賀郡国分寺町と旧河内郡南河内町の境界域に所在する。調査の結果、縫穴遺構一二五基、井戸一基、土坑・掘立柱建物・火葬墓・塚などと、それらを含む南北四七〇m東西一七〇mの範囲を取り囲む堀が検出された。遺跡中央には「うしみち」（奥大道）が南北方向に縦貫す |



(田代 隆)

9 関係文献
栃木県教育委員会・財栃木県文化振興事業団「下古館遺跡」（一九九五年）

(1) 「○三郎 へい九郎」
縦長の板目材を利用して、上下両端を折り取った後、端部をわずかに削る。左右両辺とも削られている。上端から一五mmの位置に小孔を穿ち、その上方は欠損する。下方は縦方向に割れている。二名の名を連記するが、用途は不明である。なお、釈読にあたっては、栃木県教育委員会の田熊清彦氏の教示を得た。

183×32×4 011

る。周囲を堀で囲むことで、奥大道を堀の内側に取り込んでいることになる。井戸は深さ二～五mを測り、すべて素掘りで側壁の補強などは認められない。井戸からは、漆器椀、曲物とともに出土した。土器類の井戸二五二三号の底部付近から、曲物とともに出土した。土器類は小片が多く細かな時期は決め難い。

8 木簡の釈文・内容